

OMC事務局 〒565 豊中市上新田 4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-833-9227
 広報編集局 〒573 枚方市三栗 1-18-20 前田 茂夫 TEL0720-50-5781

平成8年6月(1996年) No. 366

故増田栄一氏のご冥福を お祈りいたします

去る6月3日夜、増田世話役が心筋梗塞のために急死されました。つい10日ほど前の5月例会ではいつもと変らぬ比較のお元気な姿を見せられ、会計としての任務で会費の徴収をされており、帰りは喫茶店で2次会にも立ち寄られ映像談義に花を咲かせていましたので、何か信じられない気持ちがあります。しかし増田世話役も84才になっておられた由、OMCでは最も古くからのメンバーで、この20数年ずっと会計の要職を担当していただいております。

増田氏は若い時から、山歩きがお好きで山の8ミリ映画は沢山作られています。祭もまたお好きで全国の主だった祭にはたいてい出掛けて撮影して来られOMC 8ミリ映画フェスティバルで朝日生命ホールのスクリーンを賑わせて来られました。シネスコも増田氏の独断場でした。最近はずがビデオ時代について行けず、例会場変更を機に8ミリフィルムの上映が難しくなったのを寂しがっておられました。あと10年若かったら増田氏も小倉前会長のようにビデオに転向され、山歩きなど楽しまれたのではないかという気がいたします。

増田氏の葬儀は6月6日ご自宅近くの北田辺市民会館にてしめやかに行われ、OMCからも通夜と共に有志が参列し、ご冥福をお祈りいたしました。在りし日の増田栄一氏をしのび、今まで長い間OMCの会計を引受けていただいたご功績に感謝の念を捧げます。どうか安らかに眠り下さい。

合掌

会長 合原 一夫

6月例会のお知らせ

6月例会は22日(第4土曜日)18時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3F)にて。作品ご持参の上、多くの方のご参加をお願いします

☆5月例会のレポート

さすがに5月例会の頃となると初夏らしくなり、汗ばむ季節となった。まだ梅雨前でお天気続きなので、いろいろと行事やご予約やが多いのか、例会の出席が今一つ悪い。今月の司会役関さんから10月18日の公開映写会まであと5ヶ月しかなく、9月の初めまでには題名と長さを決定する必要があるので作品の制作の方もよろしく、との挨拶があった。

〈出席者〉有村、今井、井田、石垣、岩井、江村、岡本、上総、合原、関、花岡、増田の各氏(以上12名)なお、増田さんはこの後9日後に急逝されたので、この例会が最後となった。

〈上映作品〉

1. 「夜の神戸」 井田 元晴氏 7分

昨年12月23日夜、神戸の夜を電飾(ルミナルエ)で飾り、人々が大勢集まった時の記録。華やかなネオンの情景が描かれている。阪神大震災等なかったような錯覚さえしてくる。というわけで、作品にするならナレーションか字幕で、阪神大震災の後1年もたたない内に、これだけ復興したという神戸人の逞しさを強調、震災時の映像か写真との対比等で描けば、このテーマが生きたのではなかろうか。

2. 「通天閣の見えるまち」 石垣 禎章氏 23分

天王寺公園の花、動物園の動物が描かれている。前半ビデオカメラを持つ女性が時々ロングで出るが、どうせ出すなら彼女を主役にし立てて彼女が見たファインダー越しの映像、という演出も考えられるのではないか。全体に23分は長いのでキリンの表情などおもしろいカットもあるのでそうしたユーモアのある表情に絞ったら第三者が見ても面白かったと思う。BGMも歌詞入りのものはよほど計画的に使わないと逆効果になるので避けたいところだ。題名にしてもこの内容にマッチしていないと思うので再考の余地があろう。しかし素材が豊富なので短く纏められたら、いい作品になると思われる。

3. 「若葉の溪流」 有村 博氏 5分20秒
 このところすっかり赤目四十八滝に魅せられた作者が、初夏の若葉や滝等をこきみよいBGMに合わせて描写される。スローシャッター(1/30)やハイスピード(1/500)など色々と技巧をこらせて変化をつけられている。美しい画面の連続でうっとりさせられたが、オート撮影ではダメでホワイトバランスも太陽光に合わせて、絞りもマニュアルで撮ったと打明け話。やはりズボラを決めてオールオートでは美しい画面は望めないようだ。BGMについては少し賑やかすぎるのでは、と司会の感想あり。
4. 「室津」 今井 羨美氏 10分
 某クラブ撮影会作品とか。遊女の話しと漁港風景とが重なりあって情感あふれる作品になっているが、撮影時間が11時から4時間ほどしかなく、カット不足で苦勞したとか。このためもう一度撮り足しに行きたいと執念の程を見せられた。ナレーションの多さからいって15分は欲しい作品。しかしうまく纏められていたのはさすがベテラン今井氏の腕だ。
5. 「ザ・ダンジリ」 岡本 至弘 14分
 地元、東大阪のダンジリ祭の記録。最初三脚を立てて撮っていたが、おとなしすぎるので、カメラを手持ちにして振回し気味に撮ったと作者の弁。子供が屋根の上で踊るカットなど良いカットがあるので、もっとアップが欲しかった。結構賑やかな祭で、楽しんでいる雰囲気は伝わってくる。しかし14分はノンナレーションでは長いようだ。

★「長良川の安全のために」 建設省制作の広報活動用ビデオ 9分
 来る6月1～2日長良川撮影会の参考にと上総さんが借りてこられたビデオ。さすがプロの作った映像だけによく出来ている。ここで撮影会についての打合せがあり、集合場所、集合時間等が決められた。当日のお天気を祈ると同時にどうかいい作品が出来ますようにと念じつつ2次会へと席を移した。

☆長良川撮影会無事終了

長良川かいわい一泊撮影会は、6月1～2日の土日曜に行われたが、まずまずの天気になり無事予定通りの撮影が出来た。あとは作品完成を待つのみである。参加者は、有村、今井、岩井、江村、岡本、関、前田、花岡、森の各氏と特にご尽力いただいた上総氏の合計10名(合原会長は奥さんの手術のため欠席)。今回の撮影会は現在社会問題にもなっている長良川河口堰を上総さんの個人的な関係でいろいろと一般の人では撮りにくいところを心いくまで撮らせていただいたことや、木曾三川の情景及び長良川鶴飼の模様等

盛り沢山あり、これをどう料理するかが腕の見せどころ。作品締切は8月例会で公開審査の予定。参加者は全員出品を目指して頑張ろう！

(合原記)

<撮影会レポート>

充実感を覚えた長良川撮影会

6月1日(土)朝8時、車3台で上六を出発。途中さしたる渋滞もなく11時には三重県長島町に到着、昼食を早目にすませて早速目的の長良川河口堰から撮影開始。はじめて見る巨大なコンクリートの構造物に圧倒された。

今回の企画を引受けていただいた上総さんの個人的な関係で事前に話がついているので、管理事務所に入らせてもらい住谷副所長の案内で普通では入れないコントロールルーム等重要施設を見学し撮影出来た。魚道の側面をガラス越しに見て魚が遡上する様子を撮影したが、あいにくの引き潮で魚の数が少なかったのは残念だった。5人の係員の方が10分毎にカウンターで魚道を遡上する魚数を数えておられるのには驚いた。社会問題化している一端を覗いた思いであった。また魚道の側面をビデオ撮影して常時魚の動きを看視し、その映像は本庁に常時送信されているとか。

長良川河口堰を後にして、木曾三川公園に向い、地上65mのタワーの上から見た木曾三川(木曾川、長良川、揖斐川)の雄大なパノラマ風景は圧巻で、これこそワイドで撮りたい被写体であった。

ここから岐阜の宿まで一直線の道のりだが、混雑を避けて脇道へ入ったのが運のツキ、これがすごい悪路で車の底を地面にこすりながらの走行であった。ようやく宿にたどりつくや、早速観光船に乗込み、ビールで喉を潤し豪華なお弁当に舌づつみを打ちつつ、鵜飼舟の到着を待った。

今回は、始まる前に鵜匠の山下さん(ヒゲの立派な人だった)に特別に舟べりまできてもらい、鵜飼の歴史、鵜漁の醍醐味などを語ってもらいビデオに収めた。いよいよ定刻の7時30分6艘の鵜飼舟が到着、鵜飼が始まった。かがり火だけの灯りで6人の鵜匠が夫々12羽の鵜を巧みに操り、見事なショーを披露してくれ、撮影会1日目のフィナーレを飾るにふさわしい被写体であった。

翌2日目は、鵜飼資料園を撮影、鵜匠の山下さんをご自宅を資料園として開放されているもので、いろいろと撮影とお話を聞くことが出来た。

次に長良川のおべに小紅の渡し風景を撮影した。ここは数少ない手漕ぎの和舟の渡しであった。さらに車を進めて治水神社の前で香具師のカキ氷屋の話を、また輪中のせんどうだいら船頭平閘門や輪中資料館等をそれぞれ撮影、クランクアップした。

今回の撮影会は濃尾平野の端から端までという長い行程で題材が多かっただけにまとめ方が難しい。ベテラン揃いのOMCのこと、皆どう作品化するかが楽しみだ。

(前田記)